



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 3 月 13・14 日(土・日)
先進地(あつみ温泉・金山町)視察 編

3 月 13 日(土)、14 日(日)の 2 日間、常盤ときめき隊、手塚活用研究会、能代河川国道事務所職員あわせ 6 名で、山形県あつみ温泉と金山町を視察してきました。

初日は、2 月 15 日の「のしろ市民まちづくりフォーラム」で基調講演いただいた東京大学・堀教授の提言をもとに鶴岡市により整備されたあつみ温泉のまちづくりを視察しました。

活性化にご尽力された鶴岡市役所温海庁舎、相澤建設環境課長から現在の整備までの経緯やその効果などご説明いただいた後、いざ現地へ！あつみ温泉の間を流れる温海川沿いに、様々な形に作られた木製の休憩スペースや、カップルシート、また子供達も間近で水に親しめる空間や、施設を再利用した足湯カフェ「チットモツシェ」などがあることで、コンセプトである「そぞろ歩きが楽しい温泉街(まち)」を実感し、あつみ温泉という素晴らしい資源とプラスアルファで、一度来た人はまた来たいと思うはず！と感じました。

2 日目、宿から 3 時間ほど車にゆられ、昼食場所「谷口がっこそば」へ到着。「がっこそば」とは漬け物が入っているそばではなく、小学校分校の建物を利用したおそば屋さんで、農村体験など色々な交流の場としても使われているそうです。

昼食後は金山町役場へ向かい、町並案内人の方のご案内により、歩きながら町内を視察しました。白い壁と三角の屋根の統一された住宅が何軒も並び、その間をぬって流れる水路と併せてとても美しい所でした。このタイプの住宅を建てると助成金が交付されるそうですが、昔は「点々」としかなかったのが今は「線」となり建ち並んでいるとの説明に、町の景観の施策が住民に浸透してきていることを感じました。

どちらの場所も、地域にある資源を活用し行政主導で整備された所でしたが、来た人を温かく受け入れてくれる街並み整備に心温まる 2 日間でした。

文：宮腰 朝子



宿泊先の桂屋旅館前の道路にホントに足湯がありました。



中央分離帯が憩いの場となっています。



担当者のリアリティあふれる相澤さん(左上)の説明に新しいことを始める大変さも感じました。



通りには足湯やベンチといったそぞろ歩きを楽しむためのしかけがあちこちにありま



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

3月13日(土)、ネットワークの会員6人で先進地視察に出発。互いによく知っている者どうし、人数は少なくとも賑やかな道中でした。

初日は先日のフォーラムで講演された東京大学・堀先生が深く関わっておられるあつみ温泉です。14時頃に到着。宿泊先の桂屋旅館に鶴岡市温海庁舎・建設環境課長の相沢康夫さんがおいで下さり、これまでの取り組みを伺いました。

老舗温泉のほとんどがそうであるように、ここも宿泊客の減少が続き、12年度に「湯のまち景観整備検討委員会」が設立され、堀先生を山形県から紹介されたそうです。しかし、最初から堀先生の主張を理解し、共感する人はそれほど多くはなかったとのこと。それまで20年近くも温泉客誘客のために、東京の有名なホテルに旅行エージェントを招待して売り込みを図ったり、イベント補助金を出したりとさまざまな取り組みをしてきたようですが、景観形成や賑わいづくりなどの新たな視点で取り組むことを提案された担当者には、当初はかなり戸惑いがあったようです。今でこそ、「人が中心の道路づくり」という考えに共感する人も多いでしょうが、堀信者を自認する相澤さんでさえ、最初は道路の真ん中に足湯を造ることに大反対だったとか。

今もまちづくりのコンセプトを広く浸透させるにはご苦労されているようで、合併後の新市長に堀先生の構想を理解してもらったのも大変だったとか。堀先生とのおつきあひも、相澤さんの熱心さに市長が根負けしたというのが実状で、多くの事業が一段落したためか、来年度の事業予算がつかなかったと少し寂しそうでした。小さな町では役場全体の合意形成や事業化が早いのですが、市になると思い切った事業がなかなか進まないというジレンマがあるのではないのでしょうか。

「人を大切にする視点」、「お客様のサクラ効果」、「マスコミへの情報の出し方に対するこだわり」、「整備レベルと満足度の乗数曲線」など、どれも面白い話でしたが、一番すごいと思ったのは、堀先生とずっとつき合ってきた努力、一蓮托生の覚悟を感じたことです。実際にまちに出てお客様を大事にする仕掛け、楽しさの演出などを肌で感じましたが、どんなコンセプトでもそれを崩さず継続することで成果が現れてくると実感しました。

堀先生にアドバイスを得ようとすれば、それなりの覚悟が必要だという言葉に重みがありました。専門家の知識と知恵、



何事も経験です。くつろぎのウッドデッキも試してみました。



堀先生のお話にもあった足湯カフェ。先客の姿につられ、入ってしまいました。



先生のお話にあった女性に人気のお店にも行ってきました。入り口にはおもてなしの三種の神器がちゃんと揃っていました。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

経験を使うことの覚悟も持たず、対価も払わず、尊重もしないで聞き流すような今の自分に少し反省です。

夜は楽しい宴会が延々と続き、大高さんの独演会と化しました。思いもよらない話も聞きましたが、そのパワーには脱帽です。盛り上がりすぎて、翌日に食事をとられない人も出たほどです。生きたアワビが焼き始めに網の上で激しく動く姿に少し動揺。人間は他の動植物の命をいただいていることを改めて実感。感謝という言葉思い出しました。

翌日は金山町です。谷口がっこそば以上に揚げそばは絶品でした。国道から離れている場所なのに、お客さんがいっぱいなのが不思議です。ちょうど地域のお母さんたちの料理実習中でしたが、その楽しさが伝わってきました。自分たちにとっても居心地の良い空間だからこそ、お客さんも集まるのでしょうか。

食後は金山町の町並みを散策。寒い中を案内していただいたボランティアの佐藤さんには深く感謝です。4~5年前に訪れた時より一段と町並みが美しくなり、金山型住宅の数が増えているように感じました。雪と堰の水と住宅、周囲の山林の全て調和がとれているようで、古い民家や蔵も情緒があり、歴史と文化、伝統に誇りを持って生きていけそうなメッセージ性を感じました。ガイドの佐藤さんにとっては当たり前の風景で、どうして観光客が集まるのか分からないとの言葉に、資源探しには外部の目も必要だと思いました。

今回、印象的だったのは大きな木の歩道橋でした。下はコンクリート構造ですが、屋根や床は全て木造で、観光客も大勢いました。木の温かさ、ぬくもりを感じる風景でした。

他にも魅力あるポイントが幾つもありましたが、金山町で最も感じたのは、佐藤さんも話しておられたコンセプトを変えないで継続することの重要性でした。町長のリーダーシップのもと、町並みづくり 100 年運動を掲げ、その中でもキラッと光る施策を打ち出していくことで個性的で魅力あふれる地域が作られていったのでしょうか。外国も含めて先進的な取り組み事例に学び、他に先駆けようとする気概が地域の活力につながったのでしょうか。

ただ、二つの事例をまともに考えると無力感に陥るので、今、出来ることを地道にコツコツとでいいかなと思いました。

参加された皆さん、お疲れさまでした。

文：佐々木 松夫



翌朝には日本三大朝市の一つで 300 年の歴史があるという朝市会場にも行ってきました。



分校だった広い空間を生かして上手に活用されています。地元の方々の楽しい気持ちがお客さんにも伝わるのでしょうか。



まちなみ案内人・佐藤さんの説明を聞きながら 2 時間ほど町内を回りました。美しいまちづくりが確実に進んでいることを実感しました。



木材の良さを生かした屋根付き歩道橋「きごころ橋」。秋田でも造りましょう、佐々木先生。